



# 日本の緑化事情 / 屋上緑化で使用する土壌について

緑化には無くてはならないものとして、土壌があります。人工的な緑化です。天然の土壌と同じと言いうことはできません。

天然との最大の違いは「深さ」と「広さ」です。屋上緑化の場合には既存の建築物に設置する為にスペースの制約があります。天然のように毛細管現象を利用してような広さでも深さもありませんので、給排水を鑑みた土壌が必要になります。

建築物の上に敷設されることから荷重も与えなければなりません。天然の土を持ってきてそのまま使用することは出来ません。

特に屋上緑化では、保水性・通気性・透水性を考慮した天然土壌よりはるかに軽いものが求められます。

また、PH値も考慮しなければならぬことから、有機・無機の長所をあつめた人工土が主となっています。大日化成の屋上緑化資材・VUSシリーズで

は、水を均一に拡散する軽量培土に人工ゼオライトを配合しました。

人工ゼオライトとは、アロフエンの表面を陽イオン活性化し、高陽イオン交換容量を特徴とし、植物の生育に必要な肥料成分や微量元素を吸着・放出することで性能発揮する優れた性質があり、土壌に加えるとバランスを維持する機能により、土壌のPH、保肥性を向上させ緑化植物の生育安定に寄与します。

VUS500に配合した、人工ゼオライトは天然ゼオライトの20倍(社内試験値)の高い効果により、セダム植物の生育安定性を向上させます。

このように、ある意味草木が繁茂するには過酷な条件で育る屋上緑化でも、生育性安定度を向上させる工夫が凝らされています。

**大日製品現場レポート** 大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

## 府営住宅受水槽の改修工事でアクアエポシステムを採用頂きました！

今年の1月、某府営住宅の受水槽改修工事で当社エポシステムを採用頂きました。工事無事に完了しました。

今回の現場を受注した施工業者様は当初、他社製の樹脂製の受水槽を設計したのですが、設計士が「樹脂製の受水槽は、耐熱性が低く、変形しやすい」と指摘されたため、別の受水槽の設計を依頼しました。

約1年前、別の府営住宅の受水槽改修工事に際し、アクアエポシステムを採用して頂いたことがありました。

この設計事務所は、アクアエポシステムを採用して頂いたことが、この現場を受注するきっかけとなりました。

アクアエポシステムは、樹脂製の受水槽に比べて、耐熱性に優れ、変形しにくいという特徴があります。また、アクアエポシステムは、樹脂製の受水槽に比べて、耐熱性に優れ、変形しにくいという特徴があります。



次に水道材料の長所として、下地や素地調整材が多量に使用されているため、施工時に水分が蒸発し、乾燥によるひび割れや剥離が発生する可能性があります。アクアエポシステムは、樹脂製の受水槽に比べて、耐熱性に優れ、変形しにくいという特徴があります。

アクアエポシステムは、樹脂製の受水槽に比べて、耐熱性に優れ、変形しにくいという特徴があります。

**DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.**

- 本社  
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13  
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702
- 東京支店  
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F  
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

次号も  
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

## 映画で学ぶ 環境問題



地球が壊れる前に  
原題：Before the Flood

監督：フィッシャー・ステューヴンス  
制作：フィッシャー・ステューヴンス  
レオナルド・ディカプリオ  
出演者：レオナルド・ディカプリオ  
配給：ナショナルジオグラフィック  
上映：96分  
公開：2016年

前回取り上げた「Cowspiracy」から環境問題への関心をさらに高めようと、アカデミー主演男優賞を受賞した「レヴェナント」蘇えりし者」の撮影の傍ら、プロデューズをおこない、さらに自身も出演したドキュメンタリー映画です。

邦題は「地球が壊れる前に」ですが、原題は「Before the Flood」直訳すると「洪水になる前」となります。地球が水浸しになる前というニュアンスなのでしょうが、水浸しの要因は地球温暖化にともない北極圏の氷が溶け水

面が上昇し水没する箇所があるので、それをなんとかしようというのが骨子です。

レオナルド・ディカプリオが国連平和大使として、2年を費やして世界中を飛び回って現状を取材し、見識者や当時のアメリカ大統領バラク・オバマ氏、国務長官、イーロン・マスク、果てはローマ法王へのインタビューを行っています。それぞれの学者などの話は概ね温室効果ガスが地球温暖化の原因になっているという確固たるエビデンスはあります。

しかし前回のサステイナビリティの秘密の時と同じく、温室効果ガス増大の理由が地球温暖化の原因になっているという確固たるエビデンスはあります。

しかし、国務長官やローマ法王へ出演依頼は出来てもヤラセを依頼することは不可能だともいいます。そのことから、彼らの言及は仮にに表向きであつても真意を述べていると思われれます。

本編中には、温室効果ガス否定派の意見もあり、地球の環境を変えるなど人の力では不可能である。万年単位の氷河期へ向かっておらずむしろ水河期へ向かっておらずむしろ灼熱期も幾度か繰り返している。と単なる地球のサイクルである。というもの。

そもそも極部の氷が溶けても水面は上昇するのでしょうか？グラスに氷と並々の水を入れ、氷が溶けてもグラスの水はあふれませんが、北極の氷が大陸部に乗っかっておりそれが溶けると上昇するでしょうが、そうではありません。

ドキュメンタリーは否定派も交えてはいますが基本的に肯定派の目線で制作されています。否定派の多くの政治家は石油業界からの支援を受けているようで、化石燃料業界へ優位に働いているとも訴えています。

政治家を動かすにはどうしたら良いのか？オバマ大統領が就任前には「同性婚完全否定」でしたが、世論が同性婚を求める声が大きくなってからは「同性婚は認められるべきだ」と手のひらをひっくり返した事を皮肉っぽく取り入れています。つまり世論（民意）が変われば政治家も動

かざるを得ないと言う事です。他方で、サステイナビリティの秘密でも取り上げていたCO2以外の温室効果ガスにも目を向けており、牛肉の生育過程で大量のメタンガスが放出されるというもの。これまで毎日のように食べている牛肉を鶏肉や豚肉にする事の積み重ねから、メタンガスの圧倒的削減に寄与するということです。

各人一人一人の生活をほんの少し変更し、それが出来たら周囲へシェアする。そしてさらに大きなコミュニケーションへ・・・という草の根運動をおこなう事で、民意を動かすことができ、政治を変えることが可能だとも訴えています。

否定派が何を言っても原因が何であろうとCO2が増え続けていること自身は事実です。海面上昇や氷河が溶け出しているという事実を見て見ぬ振りをするわけには生かれません。否定派と肯定派がしばしば合意を行っていたら手遅れになるかもしれません。民意を変えるには一人一人の関心を高めることが必須です。

環境問題に関心をもち無関心にはならない。これは現在の地球民にとって喫緊の課題ではないでしょうか。それを訴えるドキュメンタリー映画であると思